

# 県内原発 発電量、前年度下回る

## 22年度工事、トラブル影響

県は4日、県内原発（商用炉8基、出力計773・8万瓩）の2022年度運転実績を公表した。関西電力の5基が稼働し、総発電電力量は279・3億瓩時。発電能力に対する実際の発電量の割合を示す設備

利用率は41・2%。ともに東京電力福島第1原発事故以降、最も高かった21年度を下回った。運転実績の内訳は美浜3号機43・6億瓩時、大飯3号機71・9億瓩時、同4号機74・5億瓩時、高浜3号

機54・3億瓩時、同4号機34・9億瓩時。稼働したプラントに限った設備利用率は64・7%となり、21年度を16・8%下回った。県原子力安全対策課は、新規制基準で設備が義務づけられたテロ対策用「特

定重大事故等対処施設」の設置工事やトラブルで定期検査の期間が長くなったことを利用率低下の要因に挙げた。運転中だった

高浜4号機の原子炉が1月に自動停止したことも影響した。安全協定に基づき連絡のあった異常事象は7件。こ

のうち法律に基づき国への報告対象は2件で、高浜4号機の自動停止と蒸気発生器の細管損傷だった。  
(石淵善郎)

# 原発設備利用率68%

県、本年度の運転計画発表

高浜1、2号再稼働 27ポト増

県は4日、県内原発の本  
年度運転計画を発表した。

発電能力に対する実際の発  
電量の割合を示す設備利用  
率は68%で、前年度実績を  
27ポト近く上回る。関西電力  
高浜1、2号機がそれぞれ  
12年ぶりに再稼働する計画  
であることが要因。

運転計画は毎年度、安全

協定に基づき日本原電と関  
電が県に連絡している。

廃止措置中を除く県内の  
原発は関電の7基と日本原  
電の1基。高浜1号機は6  
月上旬、2号機は7月中旬  
に再稼働する計画で、運転  
開始から40年を超える原発  
の稼働は美浜3号機を含め  
3基となる。

関電の7基はすべて新規  
制基準に合格している一  
方、日本原電敦賀2号機の  
審査は、相次ぐ資料の誤記  
などにより進んでいない。  
計画では、稼働可能な7基  
の設備利用率は約78%。

定期検査は美浜3号機、  
大飯3、4号機、高浜3、  
4号機で実施予定。停止期  
間は平均2・7カ月を見込  
む。美浜、大飯、高浜原発  
からドラム缶計6192本  
分の低レベル放射性固体廃  
棄物を青森県六ヶ所村の日  
本原燃低レベル放射性廃棄  
物埋設センターに輸送す  
る。

(岩淵善郎)